

～令和5年(2023年)度 助成校の先生方から～

ご意見や全国の学校へメッセージ

- 綿密にプログラムが組まれているので、すべてが学びにつながります。参加して、学んだことを自校に持ち帰り地域に広げてほしいです。
- プログラムに参加し、ぜひ学びを深めて多くの人とつながり、実践につなげてほしいです。
- 減災への当事者意識を高めることができました。ぜひ参加して理論と実践を相乗的に高めてほしいです。
- 同じ思いを持った先生方がたくさんいます。何をやりたいか、どうすればよいかを教えてもらえます。私たちは災害に対しては微力です。しかし、無力ではありません。
- 自ら体験しないとわからないこと、感じないことがあります。そこで生まれた思いが活動の原動力になります。そして、そのような熱い思いのある全国の先生方に出会えたことが財産となりました。
- 被災地を訪れ、肌で感じることで、減災を深くとらえることができました。さまざまな学校との実践交流も、自校での取り組み改善のヒントが多く見つかります。
- 「当事者意識を持つ」「子どもが主役になる」「共感」。プログラムに参加してこれらの大切さを痛感しました。
- 経験の浅い自分にとって、他校の実践や講義がとても勉強になりました。参加してよかったです。
- 研修会のスケジュールは濃厚で、有意義な時間を過ごせます。及川先生をはじめ、講師の方々の話は、多角的な視点から減災教育のポイントや最新の状況を教授いただき大変勉強になりました。
- 本校に減災の風を吹かせることができました。学校にとどまらず、県内に広めていくために、来年度もユースやユネスコ協会と連携したいと思います。
- 報道などでは伝わらない被災地のことや各校の取り組みに触れることができ、有意義なプログラムです。
- まずは取り組みを進めることが大切です。迷ったとき、分からないことを解決するヒントをもらえ、学校に合った防災・減災の取り組みにつなげることができます。
- 本校は山間部の小さな学校です。しかし、プログラムに参加し、気仙沼や全国で減災に取り組む学校と出会い、つながり、小さな学校から全校へと減災の輪が広がりました。
- 減災教育は奥が深く、「これで良い」ということがないことが分かります。今の取り組みのその先が見えるプログラムです。
- 学校現場で新しいことをするには、苦勞もありますが、参加した先生方の熱い思いからたくさんの勇気をもらうことができます。ぜひ一緒に取り組んでいきましょう。
- 減災教育は、ESD や SDGs、探究学習にも役立つことが実感できるプログラムです。